



図1 シリコンリングピアスの構造

上段：長さ6cm、直径1mmの棒状部の一端に締結用の金属環を巻いたソケット部を有するシリコンピアス、下段：棒状部断端をソケット部に挿入し金属環をカシメてリングを形成した状態

対象

1989年3月から1990年6月の間にピアスによる合併症の治療を希望して当院を受診した症例の中で感染が主因と考えられる497例(図2a)と接触皮膚炎が主因と考えられる644例(図3a)の計1141例の炎症性合併症を対象とした。初回のピアッシングの方法、合併症発生までの期間、留置されたピアスの種類および施行した施設は問わなかった。2箇所あけた穴のうち1箇所だけに合併症を起こした場合も2箇所とも起こした場合も区別せずに集計し、症例の均一化をはかるため炎症を繰り返して耳垂に結節を形成している症例は対象外とした(表1)。

結果

シリコンリング装着1週間後、3週間後に再来院を指示し経過観察を行った。1~2週間の間に再来院した901例中792例(87.9%)はすでに症状は消失していた(図2b, 3b)。4週間後までに再来院した827例では全例症状は消失し、穴の内面に上皮化が完成しておりピアスの装着が可能となった。ピアスが可能になった827例中87例が接触皮膚炎の形で再発したためシリコンリングを再装着し、経過観察できた63例は再治癒を確認した。

考 按

わが国ではクリップで耳垂に固定する耳飾りをイヤリング、穴をあけた耳垂に通して固定する耳飾りをピアスと呼んでいる。欧米とくに米国ではピアスをする女性がほとんどでイヤリングをする女性は非常に少ない。したがってイヤリングとピアスを区別する必要がなく、すべてearringと呼んでいる。特に必要のある場合はpierced earringとclip-onとに区別している。ピアスの穴あけ手術はear piercing、穴をあけた耳垂はpierced earである。ちなみにピアスは和製英語で欧米では通用しないが、本稿では通常使用されている呼称を用いた。

ピアスによる合併症は稀なものではなく、王丸²⁾はピアスをしている人の40%が何らかの合併症を経験していると報告している。生活習慣の欧米化につれてわが国でも若い女性を中心に急速にピアスが普及しており、今後医療機関を訪れる患者の増加が予想される。

ピアスによる合併症を衣笠ら³⁾は表2のように分類しているが、今回はそれらの中で最も頻度の高い感染や接触皮膚炎による炎症性合併症を対象として検討した。

今回扱った症例の中には当院受診前に他医の治療を受けた症例も相当あった。ほとんどの症例はまずピアスをはずすことを勧められている。原因であるピアスをはずして取りあえず穴を塞ぐという意見⁴⁾も多いが、外科総論では膿瘍が発生したときは速やかな切開排膿と適切なドレナージの重要性を教えている。膿瘍を形成した耳垂からピアスをはずし排膿を促してもすぐに表面の痂皮形成および上皮化が起こり耳垂内に貯溜した浸出物はうまくドレナージされなくなる。

我々が考案したシリコンリングは合併症を起こした耳垂内の浸出物を外に導くドレーンの一種と考えていただきたい。

Zackowski⁵⁾は膿腫形成や穴の閉塞を繰り返す症例にIV cannulaを留置して有効であったと報告している。Cannulaをドレーンとして利用し良好なドレナージの環境を作ろうとするものである。Zackowskiの方法に比べると我々が考案した